

土曜

SATURDAY

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



60



ドリトル動物病院副院長
(滑川市)
大森 実香

皆さんは、動物病院にペットを連れていったら「このご飯を食べさせてくださいね」と、少し値段の高いペットフードを渡された経験はありませんか？ これは「療法食」といって、簡単に言うと、それぞれの病気や体質に合わせて特別に栄養が調整されたフードです。適切な食事を与えることで病気を治療し、症状を和らげる「食事療法」は獣医療の世界でも当たり前のように行われています。

食事療法はとても有効な治療の一つで、中には食事療法なしでは

食事療法



療法食を食べる猫

自己判断で行わない

治療が難しい病気もあります。まさに『医食同源』なのです。最近ではペットフードの種類が増え、お店に行くと「〜に配慮した」「〜の健康のために」などと書いてあるものを見かけませんか。病院でもらったものと一見、同じ効果が

あるように思えますが、これは療法食ではなく、あくまで健康な子猫のための「総合栄養食」です。「もう療法食じゃなくてもいいですよ」と言われたら、このようなフードを与えてもいいのかもしれない。しかし、病院で療法食

抱えて病院に駆け込んでくるケースが後を絶ちません。

病院で処方する療法食は、重要な治療の一つなので、続けるときも、やめるときも獣医師の指導の下に適切に行うことが大切です。自己判断でやめたり、他の物を与えたりすると、時には命に関わる

を処方されたペットの飼い主さんが、このようなフードや違う種類の療法食を間違えたまま与え続け、症状を悪化させてしまうことはしばしばあります。

例えば「尿路結石症」と言われた飼い主さんが「下部尿路症候群に配慮」と書かれたフードをひたすら与え続け、ある日「おしっこが出なくてゲーゲー吐いています！」と、ぐったりした犬や猫を

「今のフードで大丈夫？」と思ったり、早めに獣医師に相談してください。療法食を与えることが難しい場合（食べない、多頭飼育で難しい、高価で続けられない、病院に買いに来られないなど）も、気軽に相談してください。

今回は食事療法中心のお話をしましたが、たとえ同じ病気であっても性格や家庭環境によって治療方法はそれぞれ違います。飼い主さんと獣医師が協力し、大切な家族の健康を守っていきましょ